

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	9,400,000株	2022年3月期	9,400,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	197,307株	2022年3月期	199,207株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	9,201,169株	2022年3月期1Q	9,200,335株

(注) 当社は「株式給付信託（BBT）」を導入しており、期末自己株式数には、信託に残存する自社の株式（2023年3月期第1四半期 11,853株、2022年3月期 13,753株、2022年3月期第1四半期 14,253株）を含めております。また、期中平均株式数は当該信託が保有する株式を考慮して計算・記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

尚、上記予想に関する事項は添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、依然として、新型コロナウイルス問題の収束の見通しは困難な状況にあります。ワクチン接種等の感染症対策が進む中で、前期3月にはまん延防止等重点措置が解除され、個人消費は回復傾向にありました。その一方で、世界的な原材料価格の高騰や為替の急激な円安等が企業の収益等を圧迫し、景気を押し下げる要因となっております。また、世界経済においては、各国で物価上昇傾向にあり、米国をはじめとして中央銀行による利上局面を迎えております。また、新型コロナウイルスの感染動向の不確実性やウクライナ情勢の長期化等もあり、先行きが不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、原材料価格の高騰や為替の円安基調等により、相次ぐ値上げが生じております。一方で、外食産業では、感染症対策の浸透や行政措置の緩和等に伴う人流の増加等があり、回復傾向にありました。また、食を提供するインフラの役割として、これまで以上に安心・安全を前提とした安定的な事業継続が求められています。

このような状況下、当社グループは、全社的な感染症対策を行い、厳格な生産管理体制の中で、安定的な製品供給の確保に注力しました。また、高騰する原材料コストに対しては、他のコスト削減や製品の販売価格の是正に着手する等、収益性の確保に取り組んでおります。その一方で、中期経営計画「ONE Kadoya 2025」の施策の一環として、当社製品を使用したメニューにより、ごまの魅力や用途多様性を訴求するカフェ「gomato (ゴマト)」のオープンや、ごまに関する情報交換が可能な双方向性のあるファンコミュニティサイト「ごまラボ」の開設等、「かどやファン」を獲得するための積極的な取り組みを行っております。

ごま油事業におきましては、製品の販売価格の是正を、4月より輸出用、5月より業務用、6月より家庭用で実施しております。この影響等により家庭用の販売数量は前年同期に比べ減少しましたが、業務用及び輸出用は外食産業の回復等により、販売数量は前年同期に比べ増加しております。

以上により、ごま油事業全体の販売数量は前年同期比105.9%、販売金額は製品の販売価格是正の実施や輸出における為替の円安基調の影響等が寄与し、前年同期比111.3%となりました。

食品ごま事業におきましては、ねりごま、食品ごまともに販売数量は前年同期を下回り、全体の販売数量は前年同期比98.9%、販売金額は前年同期比98.9%となりました。なお、食品ごま事業においては、当第1四半期連結累計期間での販売価格の是正は行っておらず、今後のコストや需要の動向を見極めた上で実施の判断を行う見込みです。

一方、コスト面におきまして、袖ヶ浦工場の償却進行に伴う減価償却費の減少等あったものの、原料価格の上昇及び為替の円安基調等に伴う原料代の増、エネルギー価格上昇等に伴う燃料費や光熱費の増等により、売上原価は前年同期比108.7%となりました。また、販売費及び一般管理費は、前年同期に特定保健用食品の新商品「健やかごま油」の発売に伴うテレビCM等を実施したこと等により、前年同期比94.6%となりました。そのほか、営業外損益に、為替の円安の進行により為替差益が333百万円（前年同期比293百万円増）発生しております。なお、為替差損益について、原料仕入取引においては、船積み時に確定する精算レートと荷渡し時に確定する仕入計上レートとの差で発生し、各時点間の為替レートの差額を収益認識しております。また、輸出取引においては、船積み時のレートと入金時レートの差額を収益認識しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高8,931百万円（前年同期比693百万円増）、経常利益は1,624百万円（前年同期比500百万円増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,121百万円（前年同期比307百万円増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①ごま油事業

ごま油事業におきましては、家庭用は、当社製品を使用したメニューを提供するカフェ「gomato (ゴマト)」のオープンや、ごまに関するファンコミュニティサイトである「ごまラボ」の開設等、中長期的に「かどやファン」を獲得するための施策を行った他、ワクチン接種等の感染症対策が浸透する中で料理教室への協賛等の販促施策や、内食需要に向けてSNSを含むWEB広告施策等を実施しております。しかしながら、6月より実施した製品の販売価格是正の影響が大きく、販売数量は前年同期に比べ減少しております。

業務用は、5月より製品の販売価格の是正を行ったものの、外食需要の回復等により、業務用全体の販売数量は前年同期に比べ増加しております。

また、輸出用は、4月より製品の販売価格の是正を行ったものの、外食需要の回復の他、前期から続く海上輸送コンテナ不足が上海の都市封鎖に伴い一時的に緩和したこと等による船積み量の増等により、販売数量は前年同期に比べ、大きく増加しております。また、為替の円安基調が販売金額の増加に寄与しています。

一方、コスト面では、売上原価は、袖ヶ浦工場の償却進行に伴う減価償却費の減少等あったものの、原料価格の上昇及び為替の円安基調等に伴う原料代の増、資材価格上昇に伴う補助材料代の増、エネルギー価格上昇に伴う燃料費や光熱費の増等により、前年同期に比べ増加しました。また、販売費及び一般管理費は、前年同期に「健や

かごま油」の発売に伴うテレビCM等を実施したこと等により、前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、売上高は6,925百万円(前年同期比706百万円増)、セグメント利益は1,136百万円(前年同期比315百万円増)となりました。

②食品ごま事業

食品ごま事業におきまして、業務用ねりごまにおいて、総菜向けの需要増等により販売数量が前年同期を上回ったものの、その他のカテゴリーでは販売数量は前年同期を下回っております。

一方、コスト面では、売上原価は、原料処理量の減に伴い原料代が前年同期に比べ減少したものの、原料払出価格の上昇、エネルギー価格の上昇による燃料費、光熱費の増等が生じており、前年同期に比べ増加しております。また、販売費及び一般管理費は、広告宣伝費の減等により、前年同期に比べ減少しました。

以上の結果、売上高は1,975百万円(前年同期比20百万円減)、セグメント利益は119百万円(前年同期比15百万円減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ889百万円減少しました。これは原材料及び貯蔵品が1,045百万円、受取手形及び売掛金が452百万円増加するなどの増加要因があったものの、現金及び預金が2,006百万円、有形固定資産が275百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,097百万円減少しました。これは賞与引当金が415百万円、未払法人税等が374百万円、未払金が193百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ207百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益1,121百万円の計上と配当金の支払い1,013百万円の加減算により利益剰余金が108百万円増加したこと、その他有価証券評価差額金が89百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表しました業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,148	4,142
受取手形及び売掛金	7,341	7,794
商品及び製品	2,041	1,892
仕掛品	1,057	1,189
原材料及び貯蔵品	6,658	7,704
その他	456	530
流動資産合計	23,705	23,254
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,285	5,231
機械装置及び運搬具(純額)	4,138	3,927
その他	3,336	3,325
有形固定資産合計	12,760	12,484
無形固定資産	348	322
投資その他の資産	2,546	2,410
固定資産合計	15,656	15,217
資産合計	39,361	38,472
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,755	2,702
未払法人税等	751	376
賞与引当金	594	179
役員賞与引当金	163	26
その他	1,883	1,828
流動負債合計	6,148	5,114
固定負債		
退職給付に係る負債	1,734	1,707
役員株式給付引当金	26	18
株式給付引当金	6	7
資産除去債務	182	182
その他	111	83
固定負債合計	2,061	1,999
負債合計	8,210	7,113
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,160	2,160
資本剰余金	3,067	3,067
利益剰余金	26,423	26,532
自己株式	△1,373	△1,362
株主資本合計	30,277	30,396
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	842	932
繰延ヘッジ損益	110	108
退職給付に係る調整累計額	△79	△78
その他の包括利益累計額合計	873	961
純資産合計	31,150	31,358
負債純資産合計	39,361	38,472

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	8,237	8,931
売上原価	5,537	6,019
売上総利益	2,700	2,911
販売費及び一般管理費	1,731	1,638
営業利益	969	1,272
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	16	14
為替差益	39	333
投資有価証券売却益	38	0
雑収入	99	8
営業外収益合計	193	356
営業外費用		
支払利息	1	—
支払手数料	33	2
投資有価証券売却損	0	2
雑損失	3	0
営業外費用合計	38	4
経常利益	1,124	1,624
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除売却損	0	1
特別損失合計	0	1
税金等調整前四半期純利益	1,123	1,623
法人税、住民税及び事業税	166	345
法人税等調整額	142	155
法人税等合計	309	501
四半期純利益	813	1,121
親会社株主に帰属する四半期純利益	813	1,121

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	813	1,121
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△61	89
繰延ヘッジ損益	△21	△2
退職給付に係る調整額	0	1
その他の包括利益合計	△82	88
四半期包括利益	731	1,210
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	731	1,210
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,123	1,623
減価償却費	390	358
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△436	△415
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△89	△136
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	12	△24
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	2	△8
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	—	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
受取利息及び受取配当金	△16	△14
支払利息	1	—
支払手数料	33	2
投資有価証券売却損益 (△は益)	△38	1
有形固定資産除売却損益 (△は益)	0	1
雑収入	—	△2
売上債権の増減額 (△は増加)	51	△452
棚卸資産の増減額 (△は増加)	613	△1,029
その他の資産の増減額 (△は増加)	127	△57
仕入債務の増減額 (△は減少)	704	△97
その他の負債の増減額 (△は減少)	△237	△96
小計	2,243	△346
利息及び配当金の受取額	16	14
支払手数料の支払額	△33	△1
法人税等の支払額	△543	△637
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,683	△970
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
投資有価証券の売却による収入	80	16
有形固定資産の取得による支出	△102	△252
無形固定資産の取得による支出	△49	△6
有形固定資産の除却による支出	△1	△5
有形固定資産の売却による収入	—	12
貸付金の回収による収入	0	0
保険積立金の積立による支出	△7	△0
保険積立金の解約による収入	50	41
その他	△1	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32	△192
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△0	△0
自己株式の処分による収入	—	11
配当金の支払額	△660	△854
財務活動によるキャッシュ・フロー	△661	△843
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	989	△2,006
現金及び現金同等物の期首残高	2,846	6,133
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,836	4,127

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	6,219	1,996	8,215	22	8,237
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,219	1,996	8,215	22	8,237
計	6,219	1,996	8,215	22	8,237
セグメント利益	821	135	957	12	969

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	957
「その他」の区分の利益	12
四半期連結損益計算書の営業利益	969

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合 計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	6,925	1,975	8,901	29	8,931
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,925	1,975	8,901	29	8,931
計	6,925	1,975	8,901	29	8,931
セグメント利益	1,136	119	1,256	15	1,272

(注) 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,256
「その他」の区分の利益	15
四半期連結損益計算書の営業利益	1,272

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。